

図書館機能に関する検討報告書

令和1年11月11日

中津川市図書館機能検討委員会

目 次

1. はじめに	2
2. 検討してきた内容の報告	3
・ 求められる図書館機能について	3
・ 図書館の蔵書冊数と延床面積の目安について	8
・ (参考) その他意見	9
3. 参考資料	
・ 機能検討委員会名簿	10
・ 会議の記録	10
・ (資料) 求められる図書館機能に関する委員会等の意見	15

1. はじめに

これまでの経過

平成30年5月に図書館構想の策定と推進を趣旨とする「新図書館構想の早期実現を求める請願」が市議会に提出され、平成30年6月に市議会において採択されました。

この請願採択を受けて中津川市は、平成30年10月に「生涯学習施設構想検討委員会準備会」を立ち上げ、その中で中央図書館の現状を踏まえて議論を進め、令和元年5月30日に中津川市新町で整備予定の複合施設への移転を軸に検討するべきとの方向性を出しました。

また、令和元年5月に「中津川市リニアを活用したまちづくり推進市民会議」から「中津川市リニアを活用したまちづくりにかかる提言書」が市長に提出され、その中で「拠点施設となる複合施設の整備にあたっては、老朽化して手狭になった中央図書館の拡張移転を検討するとともに、集客力と特色ある学びの拠点にふさわしい規模や図書機能についてよく検討すること」との提言がされました。

これまで図書館は、図書館長の全国公募や平成25年10月の「市民読書条例」の施行を経て、市民ボランティア団体との連携による毎月の企画展示や読書の普及活動に注力し、読書はがきコンクールの開催や市内小学校、中学校への配本の充実をはじめとする「中津川市子ども読書推進活動」の諸事業を展開し、利用者が年間20万人に達するなど、ソフト事業面では大きな成果を上げてきたところです。

これらの活動を背景に、図書館の老朽化や手狭さといった課題の解決に向けて、中津川市では「中津川市図書館機能検討委員会（以下「委員会」という）」を令和元年7月に設置し、求められる図書館機能について委員会に意見を求めました。

2. 検討してきた内容の報告

中津川市から委員会に意見を求められた内容は、「求められる図書館機能」、「図書館の蔵書冊数と延床面積の目安」の2点であり、検討してきた内容を、以下のとおり報告します。

「求められる図書館機能について」

検討にあたっては、若者や図書館利用団体、公民館利用団体、文化協会などとの意見交換会でいただいた意見も参考にまとめてみました。

■全スペース共通

○すべての市民が安心して利用できるユニバーサルデザイン^(※注)の採用

- ・障がいのある人や幼児から高齢者までが安心して利用できるバリアフリーによる施設設備
- ・誰にでもわかりやすく気配りが感じられる案内サイン表示

※ユニバーサルデザイン：年齢・性別・言語・文化の違い、障がいの有無や能力差を問わず利用できることを目指した建築・製品・情報などの設計・デザインのこと

○開放的で利用しやすい雰囲気漂う施設空間

- ・フロアの天井が高く開放的な空間設計
- ・会話程度の雑音を許容するエリアと静かな読書環境
- ・長い時間滞在したくなる癒しの空間づくり
- ・幼児や親子、高齢者にとっても居心地よい空間

○情報化やグローバル化の時代に対応した設備

- ・図書貸出の自動化（自動貸出返却機器の導入や図書 IC タグ^(※注)など）の検討
- ・電子図書、デジタル映像、デジタル音源など多様な情報ツールの活用
- ・インターネットを活用した広域的な図書館ネットワークによるサービス連携の推進
- ・外国からの居住者や観光客などに配慮した多言語による情報提供

※IC タグ：データの読み出し・書き込みが可能な集積回路（IC）チップを貼り付けた荷札など。貸出返却業務、蔵書点検の効率化、正確化、プライバシーの保護などに効果があるとされている。

○安心して自動車が止められる駐車場と動線計画の検討

- ・施設に近い場所での駐車場

- ・ イベント時や混雑時などを想定した駐車台数
- ・ 子どもや高齢者などの交通弱者が利用しやすい公共交通機関の推進

○まちの景観への配慮と中津川市の風土を発現する設計

- ・ 中山道を背景とした周辺の景観に配慮した設計
- ・ 東濃ヒノキなど地元の産材の活用と地元の魅力の発信

■各スペース

＜一般書架＞

○目当ての本や情報に迷わず最短でたどり着けるサポート

- ・ 書架の並び方、案内サインなど、目当ての本を探しやすくする工夫
- ・ 本を取りやすく戻しやすい書架と管理にも配慮した配置
- ・ 図書貸出の自動化と検索システムとの連動に対応した図書の配置
- ・ 表紙だしやジャンル分けなどにより、本の位置をわかりやすくする工夫

○見通しがよく、統一感とデザイン性がある使いやすい書架空間

- ・ 一般書架フロアは家具等を含めて、統一感ある色調とデザインで構成
- ・ 書架はできるだけ低くして、見通しよく開放感を効果的に演出
- ・ 閲覧用椅子などに機能性のある家具の導入

○本との新しい出会いをサポートするサービス

- ・ 新刊コーナー、話題本コーナーなどの設置
- ・ 生活、時事などトピックスに関連した市民に読んでほしい本の紹介
- ・ 司書力を発揮し、蔵書の中から市民に勧めたい本の発掘と紹介、発信

○地域や全国、海外で話題となっている本や情報の発信

- ・ 展示コーナーでの、地域や全国、海外での話題に焦点をあてた本やトピックスなどの情報発信
- ・ 映像や写真や新聞記事、地域ミニコミ紙などを活用した情報発信

＜児童コーナー＞

○子どもたちが本に親しみ、楽しく過ごせる空間

- ・ 子どもたちが目的の本を探し出し、じっくり読める場所
- ・ 親子でワクワク楽しく本と親しめる空間
- ・ 子どもたちがいつも来たくなるような児童書の充実

- ・読み聞かせや紙芝居、お話しなどができる空間
- ・幼児たちが大きな声を出しても周りに迷惑にならない空間
- ・子どもたちが遊具などを通じて遊びや交流活動ができる空間
- ・明るく、優しい、楽しさのある空間づくり

＜ヤングアダルトコーナー＞

○若者のライフスタイルや感性に合わせた空間

- ・休日や帰宅後などに小学生から中学生、高校生、大学生が気軽に立ち寄れる空間
- ・多少の談笑は許容され、友人との学習やコミュニケーションがはずむ空間
- ・漫画やライトノベルブック(※注)など、中学生、高校生向けの多様な図書の実

※ライトノベル：若者向けに読みやすい文体で書かれたヤングアダルト小説

＜学習スペース＞

○静かに集中できる学習スペース

- ・学習や調べものに集中できる専用学習スペースの設置
- ・十分な席数とWi-Fiや照明など学習をサポートする設備
- ・パソコンの音が周りの迷惑とならないための専用席の配置
- ・高校生や大学生だけでなく、大人の仕事などでの利用も考慮した設計

○グループでの学習やディスカッションができるスペース

- ・学習支援や生涯学習の場としてのラーニング・コモンズ(※注)の空間

※ラーニング・コモンズ：学生の学習支援を意図した場所で、情報通信環境が整い、自習やグループ学習用の家具や設備が用意された開放的な学習空間

＜ブラウジングスペース＞

○利用者がくつろいでリラックスできる情報収集空間

- ・多様な椅子を配置してお気に入りの席を選べるくつろぎ閲覧スペース
- ・新聞や雑誌をゆったりと読んだり、スマートフォンやタブレットを見たりして、自分だけの時間をリラックスして過ごせる空間

○くつろぎ感と魅力づくりのためのカフェ

- ・コーヒーやジュース、軽食など、利用者がくつろいで滞在するための飲食の提供

- ・地産品や利用者のニーズに応じた商品販売の研究

○暮らしに関わる身近な情報が得られる場所

- ・多種類の新聞や雑誌、情報誌が閲覧でき、欲しい情報が入手できる場所
- ・中津川市の暮らしに関わる情報や行政各分野の情報が入手できる場所

＜郷土資料コーナー＞

○中津川市の歴史・文化・地勢・自然などに関する情報の発信

- ・郷土の誇るべき先人や賢人を紹介する資料の展示
- ・地域資源となる多様な資料や合併から現在までの地域の成り立ち等を紹介する資料の公開
- ・伝統芸能や地域行事、中津川市の歴史文化資料のデジタルアーカイブス化の検討

＜事務所・作業スペース＞

○職員がサービスしやすく、安心して働ける作業環境

- ・職員の作業動線を意識した各スペースの配置
- ・学校や各施設への配本に必要な作業スペースと書架スペース
- ・職員更衣室、休憩室などの検討
- ・障がい者用の点字図書作成や図書朗読、録音作業スペース

＜サービスカウンター＞

○利用者の様々な相談に対応するサービスカウンター

- ・貸出に関するサービスを始め、図書館の利用や資料情報に関する相談などへの対応
- ・児童、ヤングアダルト、一般、高齢者、障がいがある人や外国の人などからの様々な相談への対応

○図書情報のレファレンスカウンター

- ・利用者からの問合せ対応や資料案内など充実した業務窓口
- ・市民の生活、仕事、学校、産業、行政など各分野の課題解決の支援

<書庫>

○効率的に空間を活用した蔵書スペース

- ・必要な収蔵数と将来に向けた資料の保存に対応するスペース
- ・安全性、効率性に配慮した空間設計

<多目的スペース、活動室>

○多目的かつ柔軟に活用できるスペースや活動室

- ・展示スペース及び講演会など様々なイベントが開催できるスペース
- ・利用人数に応じて、部屋の間仕切りができるなど、柔軟な活用を想定した活動室

<トイレ、授乳室>

○全ての利用者に安心して利用いただけるレストルーム

- ・清潔感があり、子育て世代や女性、障がい者のニーズに対応した空間づくり
- ・デザイン性への考慮と管理やメンテナンスがしやすい設計の採用
- ・子育て世代が安心して滞在し、利用できる授乳室などの空間

「図書館の蔵書冊数と延床面積の目安について」

図書館の蔵書冊数、延床面積については、日本図書館協会の示す基準値を参考にして、地域図書館や公民館図書室との連携も含めて検討し、当市の人口規模に相応しい水準としました。

○蔵書冊数の目安

() 内 2017年現在実績

求める 図書館機能	済美図書館	地域館計	合計
約 235,000 冊 (171,354 冊)	約 30,000 冊 (29,259 冊)	約 85,000 冊 (82,663 冊)	約 350,000 冊 (283,276 冊)

○延床面積の目安

() 内現在の面積

求める図書館機能	済美図書館	合計
約 3,600 m ² (1,487 m ²)	165 m ² (165 m ²)	約 3,800 m ² (1,652 m ²)

(根拠)

公立図書館の任務と目標(日本図書館協会)「図書館システム整備のための数値基準」

2025年人口推計:72,748人で試算

* 求める図書館機能の面積の目安

機能(想定される諸室など)	目安
書架・閲覧スペース (一般書架、児童コーナー、ヤングアダルトコーナー、ブラウジングスペース、郷土資料コーナーなど)	約 1,900 m ²
学習スペース	約 250 m ²
管理スペース (事務所・作業スペース、サービスカウンター、書庫など)	約 500 m ²
多目的スペース、活動室など	約 250 m ²
共用部 (エントランス、階段、エレベーター、廊下、トイレ、授乳室など)	約 700 m ²
合計	約 3,600 m ²

(参考)「その他意見」

- まちなか周遊の拠点となる**複合施設の整備にあたっては、活動の見える化などのメリットを生かし、人を集める工夫を凝らした様々な活動を展開するとともに、子育ての観点から子どもの心身の発達に考慮した施設や設備が求められています。**
- 図書館機能については、施設の複合化による新たな利用者の取り込みと学びの拠点としての図書館活動の充実と拡大とともに、市の拠点施設として、**学校図書館、公民館図書室との連携をさらに強化して、市内全域で充実したサービス網を提供すること**も求められています。
- サービス面では、市民一人ひとりが身近な施設として意識できるような新たな展開が必要であり、それには人口減少という社会変容の中で**市民ニーズを敏感にとらえ事業化していく図書館力**が求められています。
- これからの図書館には、従来の活動にとらわれず、市民の**誰もが行きたくなる魅力と個性が必要**であり、社会がデジタル化の潮流の中であるからこそ、活字による知識の蓄積や習得の場所として、**永く市民から親しまれ続ける施設として整備**され、諸活動が展開されることを期待しています。
- 複合施設の運営にあたっては、外国語やPC、情報ツールに精通した人材をはじめ、子育て、高齢者、障がいのある人への対応や**様々な問い合わせに即応するための体制づくりと運営**が重要なポイントであり、**市民協働の取組みや高い意識、誇りを持って業務に取り組んでいく職員の育成**も求められています。

以上、この報告書の内容が実現されることを祈念し、報告とします。

中津川市図書館機能検討委員会

3. 参考資料

○機能検討委員会名簿

(敬称略)

	氏名	地区	備考
委員長	近藤 信幸	苗木	図書館協議会を代表する者
副委員長	勝野 安和	中津	市内商工業団体推薦
委員	日下部 豊	加子母	市内商工業団体推薦
委員	藤山 仁	中津	中津川市区長会連合会推薦
委員	永治 千文	蛭川	蛭川地区推薦
委員	梅田 好美	加子母	図書館・読書推進に資する活動を行う者
委員	桑澤 芳江	中津	図書館・読書推進に資する活動を行う者
委員	郷田 恵美	中津	子育て・家庭教育の活動に資する活動を行う者
委員	田中 三雄	中津	中津川商店街連盟推薦
委員	原 美佐子	付知	図書館司書の職にある者

・アドバイザー

愛知工業大学工学部 中井孝幸教授 (日本図書館協会委員)

○会議の記録

会議の開催日程と主な検討事項

第1回 7月 4日 (木) 15時～

(現在の中央図書館の現状と課題について)

第2回 8月27日 (火) 15時～

(全国の先進事例、求められる図書館機能について)

第3回 9月24日 (火) 15時～

(全国の先進事例、求められる図書館機能について、蔵書冊

数・延床面積規模の目安について)
第4回 10月29日(火) 15時～
(図書館機能に関する検討報告書(案)について)

・意見交換会等の開催状況

- 7月26日 先進図書館視察 愛知県田原市図書館
- 8月9日 高校生大学生など若者のワークショップ
- 9月18日 利用団体等との意見交換
- 9月26日 中央公民館友の会との意見交換
- 10月15日 市文化協会との意見交換

・各会議の議事録(主な発言)

第1回会議の主な発言内容(要約)

■これまでの経緯について

- ・財政的な問題やスケジュールもあると思うが、優先事案として一日も早く開館してほしい。
- ・図書館が市民に期待される施設として、複合施設の中に機能を入れたいという市の考えはうれしく思う。
- ・デジタル化戦略も踏まえた図書館ができることを期待する。

■中津川市立図書館の現状と課題

- ・市民誰もが、遠いところの人も、一日中図書館で遊べるくらいの魅力ある図書館にしたい。
- ・誰もが集まって来られるような図書館にするには、どういう風にしたらいいのか、面積も含めて検討したい。
- ・駐車場のスペースの確保が一番の問題となる。

■中津川市リニアを活用したまちづくり構想(案)について

ー拠点施設「(仮称)まちなかつがわ」の概要ー

- ・複合施設というと新町の場所ではちょっと手狭な感じがする。図書館というものを主軸に全面的に出して、他の機能が入るような施設になるといい。
- ・リニアが来るまちというからには、それなりの機能を持った図書館でないと、人口8万人の市として恥ずかしい。

■意見交換

- ・複合施設で人が集まって活発に使ってもらえるのかという心配がある。
- ・図書館の移転と中心市街地の活性化との2つの接点をどう見出すか。
- ・様々な心配があるが、そうした問題を乗り越えながら、図書館建設へ向かわなければいけない。
- ・図書館を建設するのではなくて、中津川市の教育水準を上げていく、教育力を向上させていく、あるいは子育て支援を主体的に進めていくといった意味合いを持っているといい。
- ・デジタル化戦略などで、面積の少ない部分をある程度補っていけると思う。
- ・市民との協働による資金の確保も考えていくべき。
- ・まちなかの中山道沿いに設置されるということを考えれば、50年100年先も対応できる施設を目指さなければならない。

第2回会議の主な発言内容（要約）

■新しい図書館のかたち ～参考事例～

- ・先進的な運営方法としては、伊万里図書館（佐賀県）や田原市図書館（愛知県）での民間グループと一緒に運営している例が参考となる。
- ・行政ばかりでなく、いろいろな人が上手に関わって活動に取り組めたら予算の削減にもつながる。
- ・立地などから、ある程度利用する年齢層など対象を想定して中身を考えた方がいい。中津川市では小さい子どもから高齢者までを広く対象とするとともに、特に来てほしい世代に焦点をあて、プラスアルファとして中身を考えたほうがいい。

■求められる図書館機能について

- ・先の時代を見越しながら、まちを活性化していくための施設づくりが求められる。
- ・ユニバーサルデザインに十分配慮してほしい。
- ・観光案内所やイベント情報の発信、素敵なトイレなど、外国人観光客も集まる工夫やまちを活性化させるための図書館を考えるのもいい。
- ・とにかくたくさんの人に来てもらうという考え方が必要だと思う。
- ・最新で特徴的な全国の図書館の情報を参考として集めて、良い図書館にしたい。
- ・事務局から説明のあった機能を実現していけば、良い図書館ができると思う。
- ・駐車場など交通の便とか利用環境等も整備し、遠方に住む方たちも、また来たくなくなるような図書館が求められている。
- ・予算のことはあると思うが、説明された求められる機能全てが実現できれば最高の図書館になると思う。

- ・中津川市の文化の発信地となるような図書館にしてほしい。
- ・子育ての観点からも子どもの心身の発達に考慮した施設、設備が備えられるといい。

第3回会議の主な発言内容（要約）

■新しい図書館のかたち ～参考事例～

- ・旧町村地域は関係ないということではなく、地域には分館があり、図書連携ということを示していかなければならない。
- ・地域の図書館や学校の図書館の資料を提供してもらえるといい。

■図書館機能面積等の目安について

- ・複合施設に会議室のようなものは作る予定はあるのか。現在図書館には会議室や活動室がないので、そういう部屋がほしい。
- ・司書の方たちとよく話し合う中で、働きやすさや動きやすさを考えた設計検討をしてほしい。

■求められる図書館機能について

- ・リニアを活かしたまちづくりで、例えば中山道に調和するまちづくりを考えているのに、宇宙船みたいな建物になってしまったりすると違和感があり、その兼ね合いと考え方が必要となる。
- ・調理室がほしいという意見もある。
- ・電子図書への対応と駐車場の十分な確保、許される限り東濃ヒノキの内装材での活用が望まれる。
- ・児童コーナーでは、ボランティアに関わってもらえるようなところがあってもいい。
- ・学習スペースが空いている時間帯は、ほかの使い方など自由が利くようにしてもらえたらと思う。
- ・少人数での講演会などできるようなスペースがあるといい。
- ・児童コーナーに魅力的なお話し会の空間があるといいと思う。
- ・電子図書の今後の動向をよく調べてほしい。
- ・アナログの活字離れにしないというのも図書館の大事な役割と思う。
- ・複層階となった場合に、職員の動線や使い勝手をいかによくしていくのかが大事なところだと思う。

第4回の主な発言内容（要約）

■図書館機能に関する検討報告書（案）について

- ・児童コーナーには、声を出してしまう子どもがいるので、ケアするエスケープゾーンがあるといい。
- ・学習スペースには、グループで学習などに対応できるラーニング・コモンズがあってもいい。
- ・騒音によるトラブルを避けるための配慮を考えた方がいい。例えば、雑誌は多世代が利用するが、新聞は高齢者の利用が多いため、新聞を地域資料など静かなエリアに配置することで苦情は回避できる。
- ・レファレンスは、資料を提供するだけでなく、相談を誰かにつなぐということも重要な役目。声をかけやすい相談窓口になるといい。
- ・多目的スペースや活動室は、間仕切りを想定しているのであれば、具体的に表記した方がいい。
- ・障がい者の利用に絞った具体的な機能の項目がないのは、全スペース共通の区分にユニバーサルデザインの採用とあり、網羅されているからと考えている。
- ・規模的な大小はあると思うが、これらの機能を全て取り込めるとよいと思う。
- ・図書館で全ての地域資料を保管していく考え方ではなく、中山道資料館など他の施設との関係や役割分担について検討していくことも必要だと思う。
- ・司書のみでなく、外国人や障がい者へのサポート、子育て支援分野に精通した人を雇用するという事も考えなければいけない。
- ・人材バンクのリストを作成し、これを活用して、繋いでいくことも大事だと思う。
- ・機能融合した複合施設の中では、ボランティアなどとの市民協働活動の場が用意されていて、活動の見える化が重要だと思う。
- ・市のサービスや市民のわからないことは、レファレンス窓口に行けば、担当につないでもらったり、アドバイスがもらえるようになれば、こうしたサービスが新たな特徴になる。
- ・図書館は情報発信の拠点、そこへ行けば何でもわかるという施設を目指してほしい。
- ・これからは男性でも子どものオムツ交換をすることも想定した設計がいる。
- ・飲食のルールの設定など、設計段階で複合施設のルールづくりも必要となる。
- ・設計段階で市民への情報提供や議論を通して、皆の施設になるようにしてほしい。
- ・館長などを公募や全国の図書館で活躍している人を誘うということもある。
- ・複合施設の中で図書館が子育て支援、観光、市民交流機能との連携をとり、複合施設を管理していくということも考えたらどうか。
- ・今後は、複合施設の運営をどうするかを考えていかなければいけない。
- ・まちづくりの拠点となる施設なので、外観や運営もしっかり考えてほしい。
- ・報告書の公表方法と計画にどう反映されたかの戻し方についても検討してほしい。

○資料 求められる図書館機能に関する委員会等の意見

・求められる図書館機能に関する意見一覧

(説明)

□△○▽ 第1回～第4回 図書館機能検討委員会の意見

- 高校生、大学生のワークショップの意見
- ▲ 図書館意見交換会の意見
- 図書館スタッフによるワークショップの意見
- ◎ 市文化協会、中央公民館友の会の意見
- ☆ リニアまちづくり推進プロジェクトチームの意見

諸 室	意 見
全スペース 共通	<p>(ユニバーサルデザイン等に関すること)</p> <p>▽車いす利用者の増加にも配慮した設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ バリアフリー ■ 車椅子でも過ごしやすい ■ 本棚の角などで怪我をしない工夫 ■ 海外の人でもわかりやすい案内 ■ 子どもでもわかりやすく利用しやすい ● 車椅子やベビーカーでも利用しやすい ● 廊下や書架の間が広く、段差がない
	<p>(雰囲気等に関すること)</p> <p>□一日中図書館で遊べるくらいの魅力</p> <p>○ゾーニングされた空間。にぎやかなゾーンはにぎやかに、静かなところは静かに</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自然光(図書館奥にも取り入れてほしい) ■ 目的なく、ふらっと立ち寄れる、新たな本との出会いの場 ▲ アットホームで、居心地の良い場所 ▲ 年配の人の居場所になるような空間 ● 静かなエリアと声を出しても良いエリアとの棲み分け ☆野鳥の声や水の音など、リラックスできる音が聞こえてくる ☆恵那山や見える窓やテラス ☆明るく、開放的な雰囲気 ☆気軽に会話ができるなど、程よい雑音のある空間
	<p>(情報化等に関すること)</p> <p>□デジタル化戦略も踏まえた設備</p> <p>△海外から来た人でも図書館に興味を持ってもらえるような情報発信</p> <p>○電子書籍サービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 全館 Wi-Fi 完備 ■ 全てのイスや机の近くに充電スペースがある ▲ インターネットを使って配本が手配できる

	<p>▲機械化できるところは機械化する ▲IC タグ等による盗難防止対策 ●全館 Wi-Fi にして、館内のどこでもパソコンやスマートフォンが使える環境 ●IC タグの導入などによる効率的な図書管理 ●自動貸出機の設置 ◎自動化の推進 ☆音響や映像通信などを用いた情報の発信</p> <p>(駐車場等に関すること) □一番の問題である駐車場が十分確保できるか △交通の便が良く、アクセスしやすい立地 ◎便利がよくなるように充実してほしい ☆利用者用の駐車場が近くに十分にある</p> <p>(景観等に関すること) ○中山道のまちづくりと景観との兼ね合い ○できる限り東濃ヒノキの内装材での活用</p>
<p>一般書架</p>	<p>(管理等に関すること) ■調べたい内容の本を見つけやすい図書館(本の並びや検索など) ▲すぐに選べて、すぐに借りられる検索システムの整備 ☆分かりやすくジャンル案内がされていて、目当ての本を探しやすい</p> <p>(デザイン等に関すること) ■本棚の高さを低くする ●低めの書架で、高齢者でも楽に本を手にとることができる ☆本が適度な間隔で配置されていて取りやすい ☆様々な場所に配置されているおしゃれな椅子の中から、お気に入りの椅子に座ってリラックスして本を読める</p> <p>(本の紹介サービス等に関すること) ■NDC 厳守ではなく、ばらばらなジャンルで図書を配置 ■誰にでもお薦めできる「○○さんのおすすめコーナー」 ☆「新刊」「話題の本」などの紹介コーナーがあり、今人気の本が選べる</p> <p>(情報の発信に関すること) ▲市内各地域に関する企画展示で、地元意識を醸成し、市民交流、融合を図る ●時事の話題や季節にちなんだ本や情報の展示 ●マグネットなどで展示しやすい壁面 ●写真などの展示に便利なピクチャーレール</p>
<p>児童コーナー</p>	<p>○魅力的なお話し会の空間。仕切りもしくは可動式で、人形劇なども行える ○何回でも行きたくなる、楽しく使ってもらえる空間 ○子どもの遊び場としての屋上の活用</p>

	<p>▽声を出してしまう子どもに対する、エスケープゾーンが必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ■子どもが絵本を読むことも、遊ぶこともできるスペース ■絵本スペースにおもちゃなどがある ■子どもが騒いでもいいスペース ▲天気左右されず親子で遊べる空間 ▲現代の子供に欠けている脚力や手先の器用さなどを育める遊具、設備 ●周りに音が響かない、ガラス張りなど中が見える、お話しスペース ●絵本を面だししやすい書架 <p>☆絵本や児童書に囲まれて、親子でゆっくりと本に親しめる</p>
ヤング アダルト コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ■漫画コーナー(図書館のイメージを変える) ●会話や相談をしても良いスペース <p>☆友人たちと宿題やテスト前のグループ学習ができるスペース</p>
学習 スペース	<p>○夜は学習室で、昼間の空いている時間帯は打合せなど、他の使い方もできる部屋</p> <p>▽ラーニング・commons(グループディスカッション)に対応できる、グループ学習室があってもいい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研究や集中して作業する人のための部屋 ●利用予約ができるインターネットサービス <p>☆静かに、集中して、勉強や調べ物をしたい</p> <p>☆自分のパソコンを持ち込み、調べ物をするための設備(電源、Wi-Fiなど)</p> <p>☆タブレットやヘッドホンなどのレンタルサービス</p>
ブラウジング スペース	<p>(空間イメージ等に関すること)</p> <p>▽新聞と雑誌はエリアを分けたほうがいい。新聞は高齢者の利用が多いため、地域資料と一緒に静かなエリアに配置することで、雑誌利用者との騒音トラブルを回避できる</p> <p>▽市のサービスや活動が見えて、つながる場</p> <ul style="list-style-type: none"> ■バーカウンター付き図書館(司書がおすすめの本を紹介してくれる) ■コーヒーを飲みながら本を読みたい ■カフェ併設 ■友人と集まる ■くつろいで読めるスペース ■ベッド、足を伸ばせるソファ、マッサージチェア ■寝転がりながらだらだら本が読める ●リラックスできる、座り心地の良い椅子 <p>☆会話、飲食しながら雑誌や新聞を読めるスペース</p>
	<p>(サービス等に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バックナンバーがまとめて置いてある雑誌架 <p>☆広報誌など、市からのお知らせや計画が集積された書架</p>
郷土資料	<ul style="list-style-type: none"> ●郷土の先人・偉人を紹介する展示スペース

コーナー	●担当者から気軽に展示に関する説明を詳しく聞ける
事務室・ 作業スペース	(事務室等に関すること) ●事務室で作業をしてもカウンターの様子が見やすい配置 ●本を傷めない返却ポスト ☆事務室、カウンター、作業スペース、閉架書庫、配本作業室の配置に配慮し作業効率が良い動線
	(作業室等に関すること) ●打ち合わせスペースと応接スペース ●職員の休憩スペース ●選書や新刊を受け入れる作業室と、地域や学校へ配本作業する部屋が別に必要
	(設備等に関すること) ●職員数に見合う十分な事務機とパソコンの配置 ●建物に隣接した配本車専用駐車場(2台)
サービス カウンター	▽レファレンスは資料を提供するだけでなく、相談を誰かにつなぐということも重要な役目。声がかかけやすい相談窓口になるといい ▽そこへ行けば何でもわかるという施設を目指してほしい ■孫を連れて行ったときに、孫が喜ぶ本を教えてほしい ▲利用者に合わせた柔軟なレファレンスサービス ▲司書がクリエイティブな仕事に従事している ☆レファレンス窓口としての相談機能 ☆書架→貸出カウンター→玄関へとスムーズに移動できる動線
書庫	▽郷土資料の収蔵の検討 ●開架書庫と閉架書庫の併用 ●書庫内にも作業スペースと管理用パソコン ●書庫であっても温度湿度管理ができる ▲古い文献、行政資料を保存できる ▲十分な広さの閉架書庫
多目的 スペース 活動室	○図書館の中にサークル活動用の部屋がほしい ○図書館用にフリーで使える部屋があった方がいい ○子どもたちとワークショップができ、絵を描いたりできる作業部屋を入れる ○調理室、キッチンスタジオ ○小ホールがあったらいい ▽間仕切りで仕切れるスペース、活動室があれば、具体的な説明に加えた方がいい ■趣味づくり(本と体験を組み合わせた取り組み) ■防音室の中では騒げる ▲シアター

	<ul style="list-style-type: none"> ●講演会やイベントなどができる、映像、音響装置付きの多目的室 ●防音で録音できる部屋 ☆いろいろな企業や市民とのコラボイベント ☆ボランティアやサークル活動のできる十分な部屋
その他の機能	<ul style="list-style-type: none"> ■託児所がある ■料理教室 ■BBQができる ●利用者が自由に使えるコイン式のコピー機、印刷機 ☆住民票や戸籍、税証明等の証明発行サービス
トイレ授乳室	<ul style="list-style-type: none"> △清潔感、デザインに優れていて、利用したくなるトイレ ▽男性の子育てをサポートする設備 ●アクセスしやすい授乳室と子ども用トイレ ●トイレは、閲覧スペースと離す ☆車椅子やベビーカーの利用者にも利用しやすいトイレ
その他	<p>(まちなか等に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▽地域資料の保存の役割分担 ■病院、温泉、足湯、フィットネスジム、カラオケ、スーパー、介護施設、ボウリング場、テニスコート、弓道場併設 ●商店街との連携事業 <p>(魅力向上等に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アナログの活字離れにしないことが大事な役割 ▽外国語や障がい者へのサポート、子育て支援に精通した人材の雇用と人材バンク制度の活用 ▽複合施設のメリットである活動の見える化と市民協働の場 ▽ここに来れば何でもわかるという施設にしてほしい ▽市民への情報提供や議論を通じて、市民皆が納得の施設になるように ▽館長や職員の公募や勧誘 ▽図書館が他の機能と連携をとり、施設を管理していく ▽社会福祉協議会の協力 ■本を駅で借りられて、駅で返すことができるシステム ■欲しい資料がすぐに手に入る(海外の本とか) ■市民以外でも本を借りられ、返却は郵送でも可 ■予約制の移動図書館 ■本のデリバリー ■自分の親が昔どんな本を読んでいたか借りた履歴を調べられるシステム ■高齢者のための送迎システム ■結婚相談、恋愛相談、出会いの場 ■子どもや孫と図書館に泊まれるイベント ■ペットを連れていける ■野菜などを育てたりして、食べ物がとれる

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">■老後に昔の写真とかを見ながら同窓会▲建物だけでなく選書で個性を出せる▲忙しい社会人でも利用しやすい▲祖父母が孫を安心して遊ばせられる、本と関わる機会を作る▲小中学生も含めて誰もが図書館を利用しやすい交通網の整備▲配架、配本の充実。個人宅への手配など◎図書館長の公募◎設計段階での市民とのワークショップの開催 |
|---|

以上